

練習してきたことが全て結果につながるとは限らない...でも...

自信を持って打席に 橘定スポーツ BaseBall

「打たなきゃ」ではなく
継続してきたことへの自信と誇りを胸に
「打てる」と信じて

「量より質」と言われることも
もある。でも、三人の取り
組みは決して量だけを求め
るもの、数をクリアするだ
けのものではなかった...

目標に向かって日々努力し継続できたことを何よりも心から讃えたい

継続は力なり

目標を立てることは難しいことではないが継続することは簡単なことではない

継続してきた3人のスイング記録

| | 大石 | 吉田 | 間瀬 |
|----------------|---------------|---------------|---------------|
| | 20000 スイング | 15000 スイング | 12000 スイング |
| 11/21 (月) | 220 | 141 | 98 |
| 22 (火) | 300 | 170 | 170 |
| 24 (木) | 50 | 50 | 100 |
| 26 (土) | 1130 | 560 | |
| 30 (水) | 200 | | |
| 累計スイング | 1900 | 921 | 368 |
| 12/7 (水) | 200 | 250 | 200 |
| 8 (木) | 310 | 200 | 200 |
| 9 (金) | 490 | 300 | 50 |
| 10 (土) | 530 | 350 | 250 |
| 12 (月) | 350 | 250 | 200 |
| 13 (火) | 350 | 300 | |
| 15 (木) | 50 | 100 | 50 |
| 16 (金) | 100 | 150 | 150 |
| 19 (月) | 400 | 150 | 150 |
| 20 (火) | 300 | 300 | 400 |
| 21 (水) | 120 | 170 | 100 |
| 22 (木) | 100 | 150 | 150 |
| 23 (金) | 520 | 280 | 420 |
| 累計スイング数 | 6020 | 3921 | 3088 |
| 1/5 (木) | 500 | 300 | 312 |
| 6 (金) | 500 | 500 | |
| 7 (土) | 150 | 225 | 90 |
| 9 (月) | 500 | 400 | 250 |
| 11 (水) | 200 | 200 | 170 |
| 12 (木) | 230 | | 150 |
| 13 (金) | 300 | 140 | 70 |
| 14 (土) | 1270 | 1000 | 500 |
| 16 (月) | 280 | 280 | 30 |
| 19 (木) | 280 | 280 | 70 |
| 20 (金) | 490 | 420 | 400 |
| 21 (土) | 600 | 500 | 280 |
| 24 (火) | | 359 | |
| 25 (水) | 450 | 350 | 400 |
| 26 (木) | 500 | | |
| 27 (金) | 520 | 300 | 350 |
| 28 (土) | 60 | 60 | 60 |
| 30 (月) | 300 | 150 | 150 |
| 31 (火) | 100 | 100 | |
| 累計スイング | 13680 | 9810 | 6770 |

| | 大石 | 吉田 | 間瀬 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 2/ 1 (水) | 420 | 190 | 70 |
| 2 (木) | 400 | 5300 | |
| 3 (金) | 100 | | 100 |
| 5 (日) | 100 | 100 | 100 |
| 6 (月) | 200 | 70 | 70 |
| 7 (火) | 410 | | |
| 9 (木) | 290 | 280 | |
| 10 (金) | 100 | | 70 |
| 11 (土) | | 300 | 300 |
| 24 (金) | 400 | 400 | 350 |
| 25 (土) | 150 | 50 | 50 |
| 27 (月) | 100 | 120 | 120 |
| 28 (火) | | 70 | 70 |
| 累計スイング | 16400 | 11690 | 8080 |
| 3/ 1 (水) | 200 | 310 | 140 |
| 2 (木) | 300 | 300 | 350 |
| 3 (金) | 210 | 240 | |
| 6 (月) | 200 | 170 | 200 |
| 7 (火) | | 120 | 250 |
| 8 (水) | | 220 | 240 |
| 13 (月) | 540 | 450 | 500 |
| 14 (火) | 500 | 500 | 440 |
| 15 (水) | 150 | 160 | 150 |
| 16 (木) | 300 | 140 | 60 |
| 17 (金) | 350 | 300 | 70 |
| 18 (土) | 400 | 400 | 70 |
| 21 (火) | 35 | 35 | 35 |
| 22 (水) | 100 | 100 | 200 |
| 23 (木) | 210 | 210 | 300 |
| 24 (金) | 200 | | |
| 26 (日) | 255 | 400 | 260 |
| 27 (月) | 30 | | |
| 28 (火) | 300 | 300 | 300 |
| 29 (水) | 130 | 210 | 200 |
| 31 (金) | 60 | 60 | 160 |
| 累計スイング | 20870 | 16315 | 12005 |

十一月末から部の活動は、トレーニングが中心となっていた。ボールを使って練習もあつたが、オフシーズンでもあり、毎年取り組んでいるメニューを取り入れ、基礎体力づくりを大事にした。このトレーニングがどれだけ効果があるかはこれまでの先輩方が示している。今年の取り組み姿勢を見ていても、後輩の間瀬智弘と吉田侑生は感じるところがあ

明日からいよいよ新学期。それぞれ進級し、新たな気持ちで橘定での学校生活をスタートさせて欲しい！7日(金)は入学式のため部活動はOFFに。

つたと思う。このトレーニングと共に継続してきたのがバットスイング。目標を立てることは難しいことではないが、そこに向かって継続することは決して簡単なことではない。「量より質」と言われることもある。でも、三人の取り組みは、決して量だけを求めるもの、数をクリアするだけのものでなかった。考えながら自分自身の成長を願う、自分がどうなりたいか...どんな自分でいたいか...を頭に浮かべて取り組んでいた。三人で互いに切磋琢磨し、その中で楽しみながら三月三十一日を迎える目標を達成していた。設定した目標に向かって日々努力し、継続できたことを、

私も林先生も、何よりも心から讃えたい。そして、目標を達成できたことに自信を持って、練習してきたことが全て結果につながるとは限らない。でも、昨秋までは打球の速さも飛距離も明らかに違ってくる。それ以上一番大事なことであり期待しているのは、自信を持って打席に立つ姿、結果は後からついてくるものであり、三割(十回に三回)打てたらすごいと言われるのが野球。打席に立った「打たなきゃ」ではなく、継続してきたことへの自信と誇りを胸に「打てる」と信じて、一打席一打席を楽しんで欲しい。楽しめることができれば結果は必ずついてくる...



記録ノート

全国大会出場権をかけた

5月13日

選手権大会開幕まで1ヶ月

橘定スポーツ BaseBall



部活は大事な活動...でもその前に一番大事なことは...

部活動の前に

この時期毎年この新聞にも書いてきた忘れてはならないこと

部活動を楽しみ
全力で取り組んでほしい...
しかし、
部活が学校生活の中で
他のことを犠牲にする
理由にはならないことも
忘れないでいたい...
学校生活の充実
強い野球部を
つくることに
必ずつながる...

部活動の前に、まずは学校生活をしっかりと
おくりたい...
誠実な態度で授業に
参加し、主体的に学ぶ
姿勢を大事にして欲しい。
良い成績を収めること
にこだわらないが、
成績は別として、その時
間の学習に真剣に取り
組んで欲しい。
教科によっては放課
後に勉強会や補習等も
ある。先生に声をかけて
いたたいから必ず参加
し、場合によっては自主
的に参加して学んで欲しい。
定期考査後に補習
になる部活動に参加
できないことも多々
出てくる。日頃からしつ
かりと学ぶことが大事に
なってくる。当然のことだ
が、部活動の前に「学
習」「進級」が第一。

好きな教科、得意教
科はより一層持つて
能力を伸ばし、苦手
意識のある教科は、「で
きない」と諦めずに、野
球と同じように、「昨日より
も今日、今日よりも明日
」と、少しずつで良いの
でできること、分かるこ
とを増やして欲しい。
そして、学級、学年、学
校の中で、自分にできる
こと、やるべきことがあ
れば、自ら進んで行動でき
る一人であって欲しい。行
事等の中で進んでできる
ことはたくさんある。こ
れまで橘定野球部を築
いてきた先輩方も、この
ことを大事にしてきたか
らこそ、多くの人たちか
ら応援していただくこと
もできた。

小さな行動であつても、部員一人ひとりの
姿勢が、野球部の結果
や成績に関係なく、多く
の人たちに応援していただ
ける部になることにつ
ながる。そういう部であ
れば必ず強くなつて目
標に近づける...
学校生活の充実
強い野球部をつくること
に必ずつながる。その中
で、「部活動は学校生活
の中で他のものを犠牲に
する理由にはならない」
ことも忘れないでいたい
...
新入生の仮入部も始
まっている。その中で、1A
の袴田羽さんと和田蒼
生さんの二名は既に入
部届を提出し、正式に
部員となつてくれた。歓
迎すると共に、大事な戦
力として大いに期待して
いる。そして、何よりも
この橘定野球部で野球
を楽しんで欲しい。
今年度も橘定野球
部のモットーは
**一戦必笑
完全燃笑**

新学期が始まって一週間が過ぎ、月曜日からは平常授業
となり、いよいよ本格的に学校生活がスタートする。放課後
の練習時間は夜九時から二時間足らずと限られてくるので、
準備や片付けを素早く行い、できるだけ限り練習時間を確保し
ていきたい。
そして、一番大事なことを忘れてはならない。これまでに
何度も伝えてきたことで、特にこの時期、毎年この新聞にも
書いてきたことがある。それは、「部活動は学校生活の中で
他のものを犠牲にする理由にはならない」ということ。誰
もが分かっていることだと思いが、今年も書いておきたい...

選手権大会まで1ヶ月を切り、4月の土日、5月の大型
連休は、例年通り練習試合
を出来る限り組んでいき
たい。チームとしては、市立川
崎高校定、高津高校定との
連合チームを考えている。

- ◆JR南武線(4/15(土))
・宿原駅 14:07
・武蔵溝口駅 14:13
・武蔵小杉駅 14:21
・鹿島田駅 14:27
・尻手駅 14:30着
☆最終的に尻手駅で合流

4月15日(土)は尻手駅で、14時33分発の南武線
に乗り換え、小田栄駅着14時38分。駅から徒歩。

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | |
|---|----------------------|--------------|--------------|--------------|------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| | | | | | 4/15 練習試合予定 小田球場 午後4時~ | 16 橘G 午後6時30分~ | |
| | 17 橘G 放課後 | 18 橘G 放課後 | 19 橘G 放課後 | 20 橘G 放課後 | 21 橘G 放課後 | 22 日中に市内球場 または 午後6時30分~ 橘G | 23 練習試合予定 上平間球場 午後4時~ |
| | 24 自主練習 橘G 放課後 | 25 橘G 放課後 | 26 橘G 放課後 | 27 橘G 放課後 | 28 橘G 放課後 | 29 練習試合予定 桜川球場 午後4時~ | 30 日中に市内球場 または 午後6時30分~ 橘G |

活動のOFFの日については、天候や試合によって適宜入れていきます

今年度の神奈川県選手権大会(全国大会予選)への出場は

市立4校の連合チーム

橘定時制スポーツ BaseBall

市立川崎高校定時制 市立高津高校定時制
市立川崎総合科学高校定時制 市立橘高校定時制

目ざすものも
チームのモットーも
かわらない...

近年、特に公立高校は連合チームや不出場となる学校が増え、いく中、「公立の小規模校夜間定時制」でも単独で出場し続けることにこだわり、その中で全国大会に出場することを目ざし、その実現に誇りを持ってきた橘定時制野球部。しかし、橘定も現実的に難しい時を迎えることになった。今年度は初めてとなる他校との連合チームでの出場となる。

他校の部員と先生方とコミュニケーションをとって良いチームワークを...

新たな形で

市立高校四校全ての定時制野球部と力を合わせて戦いに臨む

昨年の全国大会はギリギリのメンバーで臨み、最後の試合となった準々決勝戦はベンチのメンバーは九人と、一人もかけることができない状況だった。その後、引退や進路変更などで部員は三人となり、秋冬の半年は三人で練習を積み重ね、この四月に二人の新入部員を迎えた。もう少し増えるかもしれないが九人には不足、また、市内の市立高校四校全ての定時制でも野球部員が少なく、かねてから考え、準備してきた連合チームを

市立川崎高校定時制
市立高津高校定時制
市立川崎総合科学高校定時制
市立橘高校定時制

で結成することになった。数年前までは、県内でも、川崎市内の市立四校の野球部は特に活動が盛んで、どこも強く、市大会で勝つことの方が難

4月23日(日)は、午後4時から上平間球場で、橘、高津、市川のOBチームと練習試合を予定している。当日は、2時30分に南武線平間駅改札前に集合し、徒歩で球場に向かう。新学期に入り、ようやく実戦経験を積む機会が持てる。楽しみながら、自分の力を試して欲しい。

しいと言われていたときもあるほどだった。橘定も七年前に市大会初優勝するまでは市内の学校には勝てず、ゴールド負けをしたり、秋季県大会の川崎予選を勝ち抜くことができない時期もあつたりした。それがこの数年の間に他の三校が部員不足となり、今年度、橘定野球部も同じような状況になり、これまでとは違った新たな時代に入った。

連合チームの部員は十五人くらいになるかと思われ、以前の橘定野球部のように、技術を磨き合い、レギュラーを目ざして切磋琢磨することができる。自らを成長させる上で、はとも大々たることであり、一人一人努力し続けて欲しい。四校となると、顧問も八人ほどとなる。他校の部員とはもちろんのこと、先生方もコミュニケーションをとって良いチームワークを築いていきたい。キャッチボールやティーバッティング

などではできるだけ他校の部員とやるようにすることも大事なこと。

ポジションや打順、出場機会も橘だけの時とは違ってくる。そのことも考え、これまで様々なポジションが守れるよう練習はしてきたが、元気にプレーして先生方に積極的に自分をアピールして欲しい。

五月十三日に開幕する「神奈川県選手権大会」に向け、来週、選手登録を行い、抽選会も行われる。チーム形態は変わっても、橘定野球部のモットーである「戦必笑」完全燃笑は変わらない。できれば、連合チームにもこのモットーを広げていきたい。野球を楽しいめなければ強くなれない。強くなればもっと楽しくなる。そして、楽しみながら、自分の力を試して欲しい。



間瀬智弘(2年)



吉田侑生(2年)



袴田羽(1年)



和田蒼生(1年)



大石優希(4年)

神奈川県選手権大会前の5月上旬(5/3~5/7ゴールデンウィーク)の活動予定

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|----------------------|--------------------|------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|------------------------------|----------|
| 5/1 橘グラウンド 放課後 | 2 スポーツ大会 OFF | 3 練習試合予定 桜川球場 午後4時~ | 4 練習試合予定 練習または練習試合 市内G or 橘G | 5 練習試合予定 小田球場 午後4時~ | 6 練習試合予定 小田球場 午後4時~ | 7 OFF |
| 8 橘グラウンド 橘課後 | 9 橘グラウンド 放課後 | 10 橘グラウンド 放課後 | 11 橘グラウンド 放課後 | 12 橘グラウンド 放課後 | 13 神奈川県選手権大会 開幕 | 14 未定 |

身近な先輩達やOB・OGも実際に戦ってきた全国の舞台

決して遠い夢の舞台ではない

第70回全国高等学校定時制通信制軟式野球大会 決勝

8月20日(日) 駒沢オリンピック硬式野球場

大智学園高校・通信制 8-11 星槎国際高校東京・通信制 (東京都第1代表) (東京都第2代表)

橘定スポーツ Baseball

目標を再確認

南関東大会で日本一と二位である東京都の二校と戦いたい

定通制野球の最高峰のレベルを実際に観て知ることは大きな刺激



定通野球の最高峰の戦いである全国大会決勝戦を観に行った。もちろん単なる見学ではない。自分達の目標を再確認し、自分達の高校野球をもっと充実したものにするための時間...

夏休みもあと10日あまりとなってきました。部活動が学校には来ていますが、9月1日のスタートに向けて気もちの面でも準備していきましょう。学校生活の充実が第一です。

どっちの学校も守備ではアウトにできる打球を確実にアウトにしたり、攻撃でもフライをあげるのではなく、綺麗にライナーやゴロでヒットを打って、攻守ともに安定しているなと思いました。ピッチャーのボールも30kmを超えてボールでもとても速く、このままでは立ち向かうことが出来ないかと思ったので、より練習をし、攻守どちらにもレベルアップしていきたいかなきゃならないなと思いました。 袴田 羽

バントを確実に決めていて、うちのチームはできる人が少ないので増やしていきたいなと思いました。守備はミスが少なく、捕れなくても前に落とさせていて判断もよかったです。次のプレーも頭に入っていた感じだったので、そういう所で差が出るのかなと思いました。 和田 蒼生

全国大会の決勝戦を見て、守備に関してはレベルが違うなと感じました。試合前のシートロックでのボール回しも常に皆の足が動いていて送球が安定していました。試合を見ていると普通のゴロを確実にアウトにする。この点では、川崎連合と決勝を戦った二校とは明らかに差がありました。打力に関しては、決勝を戦った二校を見ても川崎連合は全然負けてないなと思います。来た甘い球を叩くことに閉じては連合でもできていますので、このまま練習を続けていけば大丈夫だと思います。川崎連合の大きな課題は守備。普通のゴロ、フライを確実にアウトにすることだと今回の試合を見て改めて感じました。この先、秋大会が控えているので、今回見た事を活かして大会に臨んでいきたいなと思います。 大石 優希

八月二十日(日)、橘定野球部の活動の一つとして、駒沢オリンピック硬式野球場に「全国高等学校定通制軟式野球大会」決勝戦を観に行った。全国の定通制野球の最高峰となる試合であり、そのレベルを実際に観て知ることは大きな刺激となる。四年生の大石優希は二度全国大会を経験し、二年生の吉田侑生も間瀬智弘も昨年この舞台に立ち、全国大会のレベルや大会の重みは知っている。県大会とは全く違った雰囲気であり、特に決勝戦は両校の技術のレベルと共にチーム一丸となって戦う姿勢に、全国大会を観るのが初めてである一年生の和田蒼生と袴田羽にとっては、大きな刺激を受けたことと思う。 決勝戦は日本一を決める戦いであり、今の自分達との差を強く感じたと思うが、全国大会の舞台は、橘定野球部にとって決して遠い夢の舞台ではない。今一緒に活動している先輩達もこの舞台で戦っている。大石は二年生の時に、あと一つ勝てば日本一を決めるこの決勝戦の舞台に立てるところまで戦っている。身近な先輩達、OBやOGも実際に立っている舞台。入部したときから皆が巧かったわけではなく、初心者もいれば、久しぶりに野球をする部員もいた。共通していたのは、現在の部員と同じ、「全国大会で戦いたい」という思いであり目標を持っていたこと。それを叶えるためにはどうすれば良いか、どんな戦い方が出来るチームをつくるか、良いか悪いかを本気で考えていく中で自然と勝利に近づいた。自分達よりも技術的に優っている相手にもチームで勝てる強さを身につけていった。 今回の決勝戦で敗れた大智学園高校(通信制)は、昨年橘定が三回戦で戦った相手。八回まで2対3と接戦となり、最終的には2対6と敗れたが、最後まで食らいつくことは出来ていた。昨年戦ったときのエースは今年もエース番号



練習試合予定
◇8月26日(土)14~16時
桜川球場
対戦相手交渉中
◇8月27日(日)16~18時
御幸球場
対 橘定OB他

の「1」をつけてとしてマウンドに立つていた。昨年もストロークは平均して130キロを超える本格派であり、今大会、前日の準決勝戦で十七年連続優勝している王者の天理高校を相手に196球の熱投で倒していた。決勝戦は先発ではなかったが、リリーフすること、速球で139キロを記録した。この一年で一段と成長していった。しかし、優勝したのは、同じ東京都の第二代表である星槎国際高校(東京・通信制)だった。東京のレベルの高さがうかがえる。今年から橘定は連合チームとなり、思いや目標、戦い方を共有するにはまだ積み重ねと時間はかかると思うが、その共有がなければ個々の技術の向上があってもあの舞台には立てない。勝ち上がることには難しい。今は少しずつでも積み重ねていくしかない。もうすぐ始まる秋季大会もその積み重ねの一つと考えたい。その中で勝ち上がり、南関東大会に進出して日本一と二位である東京都の二校と戦いたい。今回決勝戦を見学した橘定の部員はその思いを強くしたと思う。

ノックを受け続けた夏… 下半身を徹底的に強化!

和田蒼生 5打数5安打

安定したフォームで力強い打球

橘定スポーツ BaseBall



頑張り抜いた夏

夏にこの人数で練習を積み重ねていくことは決して容易なことではなかった

何よりも四人の野球への誠実な取り組みが「成長の夏」をつくりあげた

少ないメンバーながら直向きに野球に打ち込む部員に私も林先生も充実した夏を過ごさせてもらった。

八月二十四日(木)御幸球場、二十六日(土)桜川球場、二十七日(日)御幸球場と、夏休み終盤は学校を出て市営球場に行き、太陽の下、実戦に向けた練習や試合経験を積んだ。普段も三十度以上の暑さの中で練習してはいるが、日中と夜とではもちろんその暑も違った。九月九日から始まる秋季大会は日中。残暑厳しい中での試合に向けて良い経験の場になった。

二十七日のOBとの練習試合は、試合開始時間になっても連合チームのメンバーが揃わず、橘定の四人と、橘定のメンバーのお父さんである袴田さんと大石さんに外野に入っていた。ただ、私と林先生と田中先生もフル出場した。大会前でもあり、連合チームとして全メンバーで実戦に取り組みたかったが、お父さん方と田中先生の協力で試合ができたことに心から感謝しています。

袴田羽と共に二人の一年生の野球に取り組む姿勢は橘定野球部の良いところをしっかりと受け継いでくれている。礎を築いた初年度は生徒で、それから十年間携わってくれている小俣コーイチも、大石や吉田侑生、そして和田や袴田の四人の姿勢をとっても喜んでいる。冬のトレーニング時期とは違い、夏にこの人数で練習を積み重ねていくことは決して容易なことではなかったが、多くの方々の協力や励ましがあって頑張れたこととであり、何よりも四人の野球への誠実な取り組みが「成長の夏」をつくりあげた。

「ありがとうございます。」試合は、一番に入った大石優希が三本のヒットを放ち、リードオフマンの役割を果たすと、二番の和田蒼生は、この日五打数五安打の活躍を見せた。この夏、前半は徹底的に内野ノックを受け続けて下半身の強化を図った。そして、後半に入ると、数多くバットを振り続けた。ケージバティングでは、全員が打ち終わったら、「まだ打てます」と、より多くの打ち込みを行ったり、御幸球場に着くと、練習前に一人で走り込んでいたり、グッツンでも一本一本全力で走り抜ける姿勢が着実に力を高めた。

私はこの三日で五〇〇球ほど投げてバテ気味ではあるが、それも心地よく感じるの、少ないメンバーながら、直向きに野球に打ち込む野球部員と充実した夏を過ごさせてもらったからだと思う。

9月2日(土)は、14時から大師球場で合同練習の予定。3日(日)は、市立川崎高校の人工芝のグラウンドでの練習を現在交渉中。

令和5年度神奈川県秋季大会 南関東大会出場を目前!

抽選の結果、予選の2試合は選手権大会と同じ組み合わせに!

- ◆予選リーグ
 - 9月9日(土) 桜川球場 午前10時~ 対 日々輝学園神奈川
 - 9月17日(日) 大師球場 午後2時~ 対 向陽台生蘭高専
 - 予備日 9月23日(土) 県立神奈川総合産業G

- ◆決勝トーナメント
 - 10月14日(土) 桜川球場
 - 10月29日(日) 藤沢八部球場

力をかしてくださるOBや家族に感謝

かつて橘定野球部で皆と同じように目標を持って汗を流していたOBの先輩方。頼むと時間を作って来てくれる人ばかり…。後輩達と終始笑顔で野球を楽しめるのは、高校時代に「完全燃笑」できたからこそであり、一人一人の姿がその大切さを伝えてくれている。今現役の皆も、いつかそんなOB・OGに…。試合は同点で時間となったが、OBから案が…。OB会長小俣コーイチ vs 大石主将の勝負!

連合 003102 6
OB 010104 6
ジャンケンでの決着をつける提案
OBの勝利に一同大笑い…。



橘定スポーツ BaseBall

ほろけり

誠実に取り組み 戦いに挑む!

四校が集まることも
九人を満たすことも
一度も無かった夏
それでも
橘定野球部の
目ざす野球や
姿勢は変わらない

真夏の暑い中ご協力ありがとうございました

支えに感謝

多くの方々に支えられて活動が出来ている橘定野球部



令和5年9月3日(日) 川崎市立川崎高校の全面人工芝のグラウンド

大会前最後の合同練習は市立川崎高校の全面人工芝の緑あざやかな夜のグラウンドだった。参加選手は五名。
六月十七日に行われた「位決定戦」で敗れて以降、橘定が中心となつて練習や練習試合を組んできたが、四校の部員が皆集まつて活動することも、九人を満たすことも一度もないまま今週末の秋季大会に臨む。
チーム練習ができないのは厳しいところだが、橘定の部員は夏休みには、高津高校のグラウンドに三回出向き、一昨日には川崎高校のグラウンドにも出向いた。そして、橘定のグラウンドには、夏休みだけでも、四回ほど川崎高校の部員が合流した。どんな状況であっても、橘定野球部の目ざす野球や姿勢は変わらない。
合同での活動の中には必ず橘定の部員は参加していたので、それぞれの選手の間には理解していると思う。一人ひとりの良さを引き出してあげるのも引き出してもらうのも大事なこと。特に合同チームでは自校の部員以上に他校の部員とのコミュニケーションやプレーについての意見交換など意識していきたい。



この夏の四人の部員は、技術面はもちろんのこと、体力面においても着実に高めることが出来た。それを確かめたり実感したり出来る練習試合が出来ていないが、自信を持って秋の戦いに挑んで欲しい。



全力で仲間と
駆け抜けた夏

秋季神奈川県大会の予選リーグ1試合目は9月9日(土)。相手は日々輝神奈川。春の選手権大会では、逆転し1点差で辛勝した相手。当然リベンジを果たそうと向かってくる。気を引き締めて臨みたい。

感謝の気持ちは全力プレーで伝えたい...

八月終盤の市内球場での練習や練習試合では、袴田さんのお父さんやお母さん、妹さん、そして、大石さんのお父さん、田中先生、OBに手伝っていただいた少人数でも大きな球場で活動することが出来ました。そして、九月に入り、二日(土)、三日(日)も、袴田さんの家族と吉田さんのお父さん、そして大石さんの弟さんにご協力いただき、フリーバッティングを行うことが出来ました。守備がいなければなかなかバッティング練習はできません。出来たとしても、一球一球の処理に時間がかかって数多く打つことは難しくなります。橘定野球部は多くの方々に支えられて活動が出来ています。私が言わなくても部員は皆わかっています。感謝の気もちを持って欲しいと思います。
秋季大会は厳しい戦いになると思いますが、四人は感謝の気もちを全力プレーで表現してくれと思います。真夏の暑い中、ご協力ありがとうございました。これからも宜しくお願いいたします。



暑いプレーを見せる大石兄弟



レフトフェンスを越える特大の一打は同点に追いつく

ホームラン

吉田侑生 (2年)

橘定スポーツ BaseBall

川崎連合チーム不動の四番 吉田侑生。四番を打つことに不安があったことが選手権大会特集号に書いてあった。プレッシャーもあったと思う。しかし、選手権大会でも長打を放ち、夏の打撃練習でも手応えを感じていた吉田侑生のバットから、ついに待望の一発が生まれた。

良い経験ではないが皆にとりて決して無駄な経験でもない

これも経験

「勝負」には必ず勝ち負けがありその差にも大小がある



令和5年9月9日(土) 桜川球場 川崎連合 3 対 15 日々輝神奈川



袴田羽(1年)

強い打球をガツンリとキャッチし
「異大送球「アウト！」」

「秋季県大会」予選の一試合目は、日々輝学園高校神奈川校に大差で敗れた。これまで何度かゴールドゲームで勝ってきた橘定野球部。今回戦った日々輝神奈川にも、昨年の決勝戦、34対1で破っている。その時の悔しさや、今年の選手権大会で1点差時間切れで敗れている悔しさが「絶対に勝ちたい」という強い気持ちとなり、メンバーも補強し一丸となって倒しに来ていた。連合チームではあるが、橘が県大会でゴールドゲームで敗れたのは初めてのことだった。四年生の大石優希は、入部してから今年の選手権大会準決勝戦まで一度も敗れた経験が無かった。全国大会以外で初めてその

悔しさを味わい、今回はゴールドゲームでの敗退を経験した。「勝負」には必ず勝ち負けがあり、その差にも大小がある。良い経験ではないが、決して無駄な経験でもない。大石のように、誠実に、ひた向きに取り組んできた人には、この経験もこれからの人生につながっていくはず。適当にやっていると本気で打ち込んでいる人は、こういうところで違ってくる。結果への喜びや悔しさがその時だけのものか、それを次に繋げられるか。この差は大きい。一つ一つの経験を決して無駄にしない時間を積み重ねてきている吉田侑生も袴田羽も、今回怪我で参加できなかった和田蒼生も次に繋げられる人。すつとそうでありたい。今回敗れ、次の試合が大石にとって、高校定通野球公式戦での最後の試合になるかもしれない。完全燃笑する姿を見せて欲しい。

大石優希(4年)



三遊間をやるレフト前ヒットで
チャンスをつくる



一番キャッチャー 大石

四番 ファースト 吉田

六番 サード 袴田

橘定スポーツ BaseBall

信らでり

その一試合が公式戦だろうか練習試合だろうか...

最後まで全カプレー

誠実に野球に取り組む姿勢と最後まであきらめない全カプレー仲間への思いやりと優しさ橘定野球部への愛情

橘定野球部が大事にしたいそのすべてを兼ね備えた

大石優希の

野球への情熱は後輩達の心に刻まれている...



橘定野球部の令和五年度公式戦が終わった。そして、四年生の大石優希の高校野球は節目の時を迎えた。六月、選手権大会で敗れたところでチームは新体制となったが、秋季大会まで現役を続けてきた大石。秋の南関東大会を目前に、進路活動と共に夏も後輩達と全力で練習を続けてきたが、この日が最後となった。

まさに「チーム大石」を象徴する一戦だった...

節目の時

練習試合になっても戦う姿勢は変わらない

令和5年9月17日(日) 市営大師球場 対 向陽台生蘭高校

Photo: 林 勇吾 助監督



1番センター 大石優希

九月十七日の試合は、残念ながら連合チームのメンバーが集まらず不戦敗となり、最後の大会だった大石優希にとっては思いがけない終わり方だったと思う。これまでの大石の取り組む姿勢、積み重ね、成長、牽引力、部への貢献をふり返ると、顧問として私も林先生も心から申し訳なく思っている。試合は、公式戦から練習試合に変わった。それでも大石は悔しさを言葉に出さなかった。いつも通り元気いっぱい仲間を鼓舞し、変わらぬ全カプレーでチームを引っ張り、最後の試合を戦った。塁に出れば走り、すべり込み、さらに次塁を狙う。後輩も大石の最後の試合だとわかつていた。練習試合になっても、勝つために戦う姿勢は変わらない。吉田侑生は見事なあたりの二塁打を二本打ち、声も出して守りを盛り上げ、ピンチに一塁ゴロを素早いバックホームで得点を阻止した。袴田羽は、相手四番の痛烈なサードゴロをさばって見せた。そして、四球で出塁し二塁に進むと、キャッチャーがボールを落とした隙をついて判断良く三塁へ走った。これまではなかったプレーだった。ダッシュ



4番ファースト 吉田侑生

で盗塁の練習をしたり、すべり込みの練習を繰り返して、橘が大事にしてきた次塁を狙う意識を高めたりと、地道に取り組んできたことで自然と体が動いたのだと思う。



5番サード 袴田羽



8番ショート 間瀬智結



大石優希の最後の試合を全員で盛り上げた...

Photo: 小俣大樹 コーチ

和田蒼生も、怪我で部活に参加できない悔しい思いの中、応援に駆けつけてくれた。試合に出られない辛さは、怪我の痛さよりも大きかった。皆、大石の最後の試合に、感謝の気持ちと、これからは自分達が...という思いを伝えていたようだった。一週間ほど前から再び部活に参加した間瀬智結も同じだった。間瀬の場合は、大石の思いに助けてもらったのかも知れない。前日の土曜日この日も、間瀬は都合もあり参加を迷っていた。しばらく休んでいた自分が...という気持ちもあつたと思ふ。大会を終えてから皆とつかり話をしてから...、そう考えていたところに、金曜日の夜、大石から連絡があつたという。大石には間瀬に伝えたい思いもあつただろうし、間瀬にとつてはありがたい連絡だったと思う。そういうことがあつて、土曜日の校外での練習、そして、最後の試合に間瀬も参加できた。しかも、試合に出ることもできた。練習不足は否めないが、いつも通り、声でチームを盛り上げ、ショート守備では全カプレーで見事な守りを見せた。練習試合にはなつたが試合が始まったら橘定野球部にとつてはもうそんなことは関係なかった。何より大石が思いきり野球を楽しんでいた。一年生の頃の、なかなか口を開かず、常に緊張していて、静かに自信がなさそうにしていた大石を思い出して、この日だけではないが、主将としてリーダーシップを発揮し、下級生からも敬われていた大石の頼もしさや成長をあらためて実感した。この日の試合は、まさに「チーム大石」を象徴する一戦だった。

昨年までは、『打倒橘』と、常に追われる立場で戦い続けてきた。そのプレッシャーの中でプレーしてきた大石優希は、今年はまだ違った経験を積み重ねた。それでも、大石の野球への姿勢は変わらず、橘定野球部のモットー「一戦必笑 完全燃笑」を最後まで貫いていた。

生き生きと働く 橘定野球部OBの岡崎巧さん

橘定スポーツ BaseBall

人生の転機

橘定野球部への入部がきっかけになることも...


自ら意思を伝え踏み出した運命の第一歩

先日、学校に、キャリア教育支援誌「みらい百花」という雑誌が届きました。様々な職種の方々に「職業インタビュー」したもので、六十人近くの方々のインタビュー記事や働く様子が掲載されていました。その雑誌に、橘定野球部OBで、OB戦にいつも駆けつけて後輩達を支えてくれている岡崎巧さんが紹介されています。4年前の夏、四年生だった岡崎さんは一

生懸命に就職活動していました。私も顧問ということで、何回か面接官役となつて練習をしたことを覚えています。岡崎さんの入部は一年生が終わる頃でした。教室では話をする友人も少なく、静かに一人であるタイプだった岡崎さんは、放課後になると、当時担任だった先生と雑談をしてから帰るといふ生活を送っていました。そんな中、お兄さんとキャッチボールして楽しかった話を担任にしたところ、「キャッチボールしよう」となったそう、グラウンドにきました。私達野球部は冬のトレーニングをしていました。私しか声をかけると入ってきて、翌日もそんな感じで一緒にやり、三日目には野球部の一員になつていました。驚き、最も厳しい冬トレーニングに入部してきたのはこれまで岡崎さんただ一人です。

先日、学校に、キャリア教育支援誌「みらい百花」という雑誌が届きました。様々な職種の方々に「職業インタビュー」したもので、六十人近くの方々のインタビュー記事や働く様子が掲載されていました。その雑誌に、橘定野球部OBで、OB戦にいつも駆けつけて後輩達を支えてくれている岡崎巧さんが紹介されています。4年前の夏、四年生だった岡崎さんは一


職業インタビュー
INTERVIEW No. 18



自動車整備士

神奈川三菱ふそう自動車販売株式会社 | 岡崎 巧さん(22歳)

所 属：浦北支店 整備工場
道 の り：川崎市立東橋中学校▶川崎市立橋高等学校(定時制)



教えて! Q&A

Q どんな性格? A 真面目。学生の頃部活がのせいでしていたことも、今はまず自分を振り返って考えます。

Q 「働く」ってどう? A 仕事の効率を第一に作業の順番や時間配分を考えるので、頭を使います。

Q どんな会社? A 初めての仕事でも先輩社員が二人三脚で指導してくれるので、すごく安心です!



責任感と緊張感の上でこそ成り立つ “安全”を約束する仕事

変わっていくことで掴んだ将来への道

僕の人生の転機は高校時代。中学生の頃は学校に行くのが面倒でサボりがちだったのですが(笑)、顧問の先生になかば強引に誘われ野球部に入ったんです。厳しいけれどやる気を引き出してくれた先生に鍛えられ、毎日夜遅くまで体を動かし勝つ喜びや協力する楽しさを知るうちに、徐々に前向きな気持ちが芽生えていきました。そして「将来はちゃんとした仕事に就こう!」と思うようになったときに出会ったのが、この会



社の部品課の求人情報。いずれは自分の車も整備してみたかったので、整備の仕事の求人はないか学校から問い合わせしてもらいました。ずっと受け身だった僕が、自ら意思を伝え踏み出した運命の第一歩でしたね!

事故を未然に防ぐ「車検」の重み

現在僕は、大型トラックの車検を担当。所有者であるお客様には1年ごとに国の保安基準に則って車体を細かく検査し登録することが義務付けられているので、整備のプロである僕たちが、状況に応じてブレーキパッドやエンジンオイルなどの消耗品の交換、タイヤの空気圧の調整、バッテリーの交換などを行います。普通科の高校を卒業したので入社時は整備の知識もなく、タイヤのボルトを締めるときはどのサイズのレンチ(工具)を選ばばいいか、どれ

くらいの強度が必要かなど、一から勉強しました。人の命を預かる仕事なので責任は重大。学生の頃は何に対しても「自分は関係ない」とどこか他人事でしたが、今はミスを防ぎ効率よく整備を進めるため、不明点は自分から確認に行くよう心がけています。

今後は車検だけでなく、大型トラックの重整備を任される整備士になりたい。うちの会社はやる気がある者にチャンスが与えられるので、1日でも早く声がかかるよう、日々準備をしているんです。



重い荷物を長距離運び続ける大型トラックは、エンジンを新しいものに取替えるなど、時間と技術を要する整備が必要になることも。

主砲の長打で試合を決める

2本の2塁打

橘定スポーツ BaseBall

1年生の冬
目標を持って16,315回
バットを振って自信が
今大会3本の長打
となって表れた



負けが決まっていた試合でも
最後まで全力を尽くし
勝利を手にした姿に
橘定野球部が
これまでに築いてきた
伝統の継承と
新たな前進を
感じた…

吉田侑生
(2年)

置かれた状況に嘆くことなく大好きな野球に没頭できる姿勢に

勝利を目ざす

最初から勝敗が決まっている試合に心の中では複雑な気もちでも…

令和5年9月17日(日) 市営大師球場 対 向陽台生蘭高校 Photo: 林 勇吾 助監督

当日棄権となった秋季県大会の向陽台生蘭戦。橘定の選手は最後まで全カプレーを見せた。最初から勝敗が決まっている試合に心の中では複雑な気もちだったが、グラウンドに立った四人のプレーは、全力で勝利を目ざしていた。九年前に再結成した野球部が今年初めて他校との合同チームで選手権大会、秋季大会に出場した。大会に出るためには他に選抜肢はなかった。その中で、昨年の全国大会を経験している大石優希、吉田侑生、間瀬智紘は、再びあの舞台に立つことを目標に、そして、あの喜びを皆にも味わってもらいたい、プレーでも気もちでも合同チームを引っ張っていた。置かれた状況に嘆くことなく、練習でも試合でも大好きな野球に没頭できる部員の姿勢に、教えられること、あらためて気づかされるのがたくさんあった。



吉田侑生

2塁ベース上で
チームを盛り上げる

今年度の公式戦を全て終え、早くも来年度を見据えた活動となる。個々の目標と共にチームの目標を明確に前進していきたい…。



間瀬智紘
(2年)



大石優希
(4年)



袴田 羽
(1年)

一戦必笑 完全燃笑 それが橘定野球の心意気



袴田 羽



吉田侑生



大石優希



間瀬智紘



大石優希

向上心を忘れずに 橘定スポーツ BaseBall

技術的にも精神的にも引張っていくことができるように



令和5年9月30日(土) 橘高校グラウンド

春になればすぐに大会は始まる。この秋の取り組みが「鍵」

実りの秋に

メンバーが足りなくても橘定野球部は来年度に向かっている

秋季県大会は、大和商业高等学校と日々輝学園神奈川校が決勝進出を決め、同時に十一月に行われる南関東大会出場を決めた。大和商业とは選手権大会三位決定戦で戦い、敗れている。そして、日々輝神奈川は、九月九日に秋季県大会の予選で戦い、二年生中心のチームであり、来年度も強敵であることは間違いない。全国を目指すにはこの二チームを倒さなければならぬ。春になればすぐに大会は始まる。この秋の取り組みが「鍵」となる。

橘定野球部は、既に来年度に向かっている。四年生の大石優希は今も一緒に活動してくれているが、現実的にはメンバーは四人。昨年のこの時期は三人だった。一人で多いが皆が希望している。単独で出場するためには最低でもあと五人のメンバーを集めなければならぬ。厳しいことは確かだが、集まったときに、技術的にも精神的にも引張っていくことができるよう、まずは向上心を忘れずに前向きに取り組んでいきたい。



大石優希



今月は定期考査と文化祭があり、また、グラウンドの工事も予定されているため、思うように活動できないところもあるが、時間を大事に取り組んでいきたい。



吉田侑生



令和5年9月22日(金)



袴田 羽

多くの方々の協力にて実践経験が...

この秋は、連合チームではなく、OBやOGに入ってもらったり、相手チームになってもらったりしながら練習試合を組んでいきたい。まずは今度の日曜日に、OBや橘定の先生方の力をかりて練習試合を予定している。多くの方々の協力に感謝しながら、一人一人自分の課題を持って試合に臨み、この実践経験の場を有意義なものにしたい。

10月8日(日)は、上平間球場に13時集合。試合は14時~16時。この日は、部員と顧問以外に12人ものOB・OGや先生方が集まってくれる予定!

| 10/3(火) | 4(水) | 5(木) | 6(金) | 7(土) | 8(日) | 9(月) | 10(火) |
|---------|---------|---------|---------|-----------|--------------------------------|------|-------|
| 放課後ピロティ | 放課後ピロティ | 放課後ピロティ | 放課後ピロティ | 18時30分~橘G | 14時00分~上平間球場 練習試合 対OB+教員チーム | OFF | 放課後橘G |

●10月18日(水)から「秋季考査」となるため、1週間前の11日(水)から19日(木)まで活動停止となり、20日(金)から再開となります。各自で体を動かしておきましょう。※今週はグラウンドの校時のためピロティ。



間瀬智紘

楽しくそして活刺とした全カプレーで伝えてくれた

後輩へのエール

橘定スポーツ BaseBall

伝えて

秋県大会の終わりに感じるものがあった集まってくれたのだと...

橘定野球部の絆

成し遂げてきた人たちだからこそ頑張っている後輩に伝えたい



Photo:和田蒼生

| | | | | | | | | | |
|----------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 橘定野球部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| OB・OG・教員 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | X | 4 |

| 橘OB・OG・教員 | | 橘定軟式野球部 | |
|-----------|----------|---------|------------|
| 1 | 矢部 (OB) | 1 | 大石 (4年) |
| 2 | 石塚 (橘教) | 2 | 間瀬 (2年) |
| 3 | 田中 (橘教) | 3 | 袴田 (1年) |
| 4 | 大野 (OB) | 4 | 吉田 (2年) |
| 5 | 岡崎 (OB) | 5 | 横山 (部活体験) |
| 6 | 野村昇 (OB) | 6 | 大石弟 (協力) |
| 7 | 野村智 (OB) | 7 | 大石弟 (協力) |
| 8 | 野村 (顧問) | 8 | 小俣 (OBコーチ) |
| 9 | 林 (顧問) | 9 | 大石父 (協力) |
| | 小森 (OG) | | |

○カメラマン 和田(1年) ○主審 中島(顧問)

右のオーダー表を見てわかるように、この日、田中先生や石塚先生、OB・OGをはじめ十四人も多くの方々が橘定野球部に力をかしてくださり、8インニングの実戦経験を積むことができた。普段から仕事や学校の時間さえ合えば協力してくれる人たちがこの日は特別多くの人たちが駆けつけてくれた。「秋県大会」の終わりに、部員と同じような悔しさや憤りを感じているOBもいた。皆橘定野球部を築き上げてきたこと、部員であったことに誇りを持っていてくれた人たちが、今の部の状況に感じているものがあつて集まってくれたのだと思う。自分達で大切に楽しみなながらも、全カプレーで戦ってくれていた。

そして、三代目主将の野村昇吾さんが自チームの戦い方に俺たちの点の取り方はそんなのじゃなかっただろう」と言え、五代目主将の大野希海さんは好走塁にこれが橘定の走塁」と、自分達が全国大会に出場するために築いてきた戦い方を意識的に後輩達に伝えていくように感じました。大石優希は、共に戦ってきた人たちの言葉やプレーになぜか心がいくつもあつたと思う。

今の部員にできないことではない。先輩達も決して強いチームではなかった。でも、どうしてか全国の舞台で戦いたいという思いが言われては、なく、自分達からチームプレーの徹底、好き勝手にバットを振り回すのではなく、コンバクトにバットを振って1点を取り、二塁打は三塁打にする走塁。出塁したら二塁で三塁まで盗塁する練習を繰り返して、実践していった。それが全国大会に出場できるチームになつていった。今、大石が出塁するとすぐ盗塁を試みるのはそれがあって自信があるからでもある。

勝ち上がるためには、自分達が勝つためにどうすればいいかをチームで考え共有しなければならぬことをこの日伝えてくれたのだと思う。成し遂げてきた人たちだからこそ、同じように頑張っている後輩に伝え、目標や夢を実現して欲しいと願ってくれているのだと思う。心温かい先輩方に感謝したい...

毎年野球部で制作しているドキュメンタリー記録映画『俺たちの高校野球』第11弾のショートバージョンを「前夜祭」と「文化祭」で上映する予定です。



大野(OB) 田中先生 林(顧問) 矢部(OB) 岡崎(OB) 石塚先生 野村智(OB) 小俣(OB・コーチ) 大石(父) 野村昇(OB) 横山(部活体験) 大石(弟) 大石(弟) 中島(顧問) 袴田(1年) 吉田(2年) 大石(4年) 間瀬(2年) 和田(1年) 小森(OG)

父と弟が全ての星をうめた満星のチャンスに 打席には大石優希

大石一家の攻撃

野球の神様が用意してくれた シチュエーション

橘定スポーツ BaseBall

待たせり

橘単独で試合をするためには三人が投げられなければ

全力投球

誰もが橘定のエースになれるチャンスがある



捕手 田中先生

大石優希 (4年)

Photo:和田蒼生(1年)

八回の表、橘定野球部チームに満星の絶好のチャンス。そして特別な光景を目にする……。三塁走者は大石弟、二塁走者も大石弟、一塁走者は大石父、そして打席には大石優希。攻撃陣は大石一家。さらに応援席には大石母と大石妹二人。常に一生懸命に頑張ってきた大石優希に、まさに野球の神様が用意してくれたシチュエーション。大いに盛り上がったこの場面で大石優希は押し出し四球を選び、大石家て一点をもぎ取る！

18日(水)から「秋季考査」が始まる。11日(水)から1週間前となり、試験最終日前日の19日(木)までの9日間は活動停止となる。再開は20日(金)で、この間は、試験に向けた学習と共に、各自で出来る限り体を動かしておいて欲しい。21日(土)は、夜、橘のグラウンドで練習を予定している。

緩急を巧く使った投球と外角低めへのストレートを磨く

緩急を使ったピッチングでタイミングをずらすことができ、勝負球の外角いっぱいストロークがコントロール良くなる

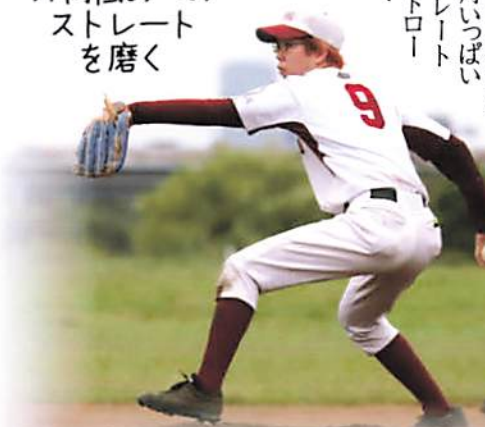


Photo:和田蒼生

間瀬智紘 (2年)

決まると簡単には打てない。打者の外角低めへのストレートをしっかりと投げ込める制球力を磨いてきた。吉田侑生は、投打共に今、大きな成長期を迎えている。これまでのOBの多くも、二年生の夏から秋にかけて特に大きな成長を遂げてきている。昨年度のエース三浦翼さんも、二年の夏から秋にかけて急速を10km近くアップさせ、十一月の南関東大会で周りを驚かせる力強い投球を見せた。吉田の秋季大会での打撃と共に、球威のあるストレートと切れ味鋭いスライダが当時の三浦さんと重なった。

チームのためにも自分のためにも 目ざせ!橘定のエース

トロールも投球テンポも良いので、野手も守りやすくなる。秋はまだ数試合の練習試合を考えている。今回のようにOBや協力者の力をかりながらも橘単独で試合をするためには、三人が投げられなければならぬ。

コントロールとテンポの良さが守る野手にリズムを生む。

袴田 羽 (1年)

Photo:和田蒼生



急成長中!球威のあるストレートと切れ味鋭いスライダが二年生当時の三浦翼さんと重なる。

吉田侑生 (2年)

Photo:和田蒼生



その一試合が公式戦だろうか練習試合だろうか...

最後まで全カプレー

誠実に野球に取り組む姿勢と最後まであきらめない全カプレー仲間への思いやりと優しさ橘定野球部への愛情

橘定野球部が大事にしたいそのすべてを兼ね備えた

大石優希の

野球への情熱は後輩達の心に刻まれている...

橘定スポーツ BaseBall

をうでひ



まさに『チーム大石』を象徴する一戦だった...

節目の時

練習試合になっても戦う姿勢は変わらない

橘定野球部の令和五年度公式戦が終わった。そして、四年生の大石優希の高校野球は節目の時を迎えた。六月、選手権大会で敗れたところでチームは新体制となったが、秋季大会まで現役を続けてきた大石。秋の南関東大会を目前とし、進路活動と共に夏も後輩達と全力で練習を続けてきたが、この日が最後となった...

令和5年9月17日(日) 市営大師球場 対 向陽台生蘭高校

Photo: 林 勇吾 助監督



1番センター 大石優希

九月十七日の試合は、残念ながら連合チームのメンバーが集まらず不戦敗となり、最後の大会だった大石優希にとっては思いがけない大石の取り組む姿勢、積み重ねの成長、牽引力、部への貢献をふり返ると、顧問として私も林先生も心から申し訳なく思っている。試合は、公式戦から練習試合に変った。それでも大石は悔しさを言葉に出さなかった。いつも通り元気いっぱい仲間を鼓舞し、変わらぬ全カプレーでチームを引っ張り、最後の試合を戦った。塁に出れば走り、すべり込み、さらに次塁を狙う。後輩も大石の最後の試合だとわかつた。練習試合になっても、勝つために戦う姿勢は変わらない。吉田侑生は見事なあたりの二塁打を二本打ち、声も出して守りを盛り上げ、ピンチに一塁ゴロを素早いバックホームで得点を阻止した。袴田羽は、相手四番の痛烈なサードゴロをさばいて見せた。そして、四球で出塁し二塁に進むと、キヤッチャーがボールを落としたりした隙をついて判断良く三塁へ走った。これまではなかったプレーだった。ダッシュ

昨年までは、『打倒橘』と、常に追われる立場で戦い続けてきた。そのプレッシャーの中でプレーしてきた大石優希は、今年はまた違った経験を積み重ねた。それでも、大石の野球への姿勢は変わらず、橘定野球部のモットー「一戦必笑 完全燃笑」を最後まで貫いていた。



4番ファースト 吉田侑生



5番サード 袴田羽



8番ショート 間瀬智結

で盗塁の練習をしたり、すべり込みの練習を繰り返して、橘が大事にしていた練習を意欲を高めたりと、地道に取り組んできたことで自然と体が動いたのだと思う。



大石優希の最後の試合を全員で盛り上げた...

Photo: 小俣大樹 コーチ

和田蒼生も、怪我で部活に参加できない悔しい思いの中、応援に駆けつけてくれた。試合に出られない辛さは、怪我の痛みよりも大きいのと思う。それでも球場にいてくれた。皆、大石の最後の試合に、感謝の気持ちと、これからは自分達が...という思いを伝えていた。一週間ほど前から再び部活に参加した間瀬智結も同じだった。間瀬の場合も、大石の思いに助けられた。間瀬のことも、前日の土曜日にもこの日も、間瀬は都合もあり参加を迷っていた。しばらく休んでいた自分が...という気持ちもあつたと思う。大会を終えてから皆としっかり話をしてから...、そう考えていたところに、金曜日の夜、大石から連絡があつたという。大石には間瀬に伝えたい思いもあつた。間瀬にとつてはありがたい連絡だったと思う。そういうことがあつて、土曜日の校外での練習、そして、最後の試合に間瀬も参加できた。練習不足は否めないが、いつも通り、声でチームを盛り上げ、ショートを守備では全カプレーで見事な守りを見せた。練習試合にはなつたが、試合が始まったら橘定野球部にとつてはもうそんなことは関係なかった。何よりも大石が思いきり野球を楽しんでいた。一年生の頃の、なかなか口を開かず、常に緊張して、静かに自信がなさそうにしていた大石を思い出して、この日だけではないが、主将としてリーダーシップを発揮し、下級生からも敬われている大石の頼もしさと成長をあらためて実感した。この日の試合は、まさに『チーム大石』を象徴する一戦だった...

野球部に新たな仲間

来年の全国大会出場を
目指す仲間が入部。

橘定スポーツ BaseBall

たうでい



嬉しい新入部員
牧田 風世 (3年)

技術的な上達ももちろんだが、何よりも、仲間と野球を楽しみ、野球というスポーツを好きにならなうて欲しい。そして、その中で高い目標を共有し、そこに辿りつくための努力を、続けて欲しいと願っている。

明日の前夜祭と土曜日の文化祭で野球部の姿を

記録映画を

結果にかかわらず部員の頑張る姿は変わらない

十月に入り、橘定野球部に「新入部員」を迎えるという嬉しい出来事があった。3年A組の牧田風世さんで、野球は初心者ではあるものの、小学校時代から続けたバスケボールで磨いた瞬発力や持ち前の高い運動能力を見せ始めている。とは言っても、野球は道具を使って小さなボールを扱うスポーツなのでなかなか思うようにはいかず戸惑っている様子も見られる。しかし、その部分も楽しんでいけるように見える。戸惑うのも出来ないのも当然であり、その克服も楽しみながら。向上心もあり、新たなスポーツにチャレンジする楽しさがさらに技術の向上に繋がっていくことだろう。野球部には、丁寧に教えてくれる部員も一緒にとことん練習してくれる部員もいる。技術的な上達ももちろんだが、何よりも、仲間と野球を楽しみ、野球というスポーツを好きにならなうて欲しい。そして、その中で高い目標を共有し、そこに辿りつくための努力を続けて欲しいと願っている。

これまで橘定野球部を築いてきてくれた先輩達にも同じ気持ちでできた「橘定野球部」に入部して良かったと思つて卒業してもらえらる部でありたいと私も林先生も思っている。牧田風世はあと一年半足らずではあるが、そう思える時間を費やしてもらいたいと思つているし、導いていきたいと思つている。

練習試合が十一月三日(祝)に予定されている。この試合が牧田のデビュー戦となる。豪快なスイングを期待したい。

今年度も野球部のドキュメンタリー映画を制作している。シリーズも第11弾となる。毎年3月に上映されるが、前夜祭や文化祭でもその一部を上映し、多くの生徒に部員の頑張る姿を観てもらってきた。今年、結果を残すことは出来なかったが、部員の頑張る姿は変わらない。

橘定軟式野球部 自主制作ドキュメンタリー記録映画

俺たちの 高校野球 11 シリーズ

— 悔しさを新たなスタートに 夢は続く —

令和5年10月26日(木) 前夜祭
◎マルチホールのスクリーンで上映
10月28日(土) 文化祭
◎2階4B教室前ホールにて大型テレビで上映



誰からも応援してもらえる野球部を

この上映を機に6人のますますの成長と前進を期待…

橘定スポーツ BaseBall

はろてり



袴田羽の野球にかける情熱
橘定野球部への強い思い
誰にも負けない練習量をこなす姿勢が
説得力のあるナレーションを生む…



橘高校定時制軟式野球部

この上映を機に、六人のますますの成長と前進を私は期待している。



マルチホールの大型スクリーンで「俺たちの高校野球」を上映

願いが願いで終わらなかつた代々の橘定野球部員の姿を見ているから

前進への機会

映画は十年間決して思い出として残してきたわけではない

映画上映に先立ち挨拶する間瀬智雄主将

二十六日の前夜祭では、マルチホールの大型スクリーンで「俺たちの高校野球II」を上映させていただいた。毎年制作してきたこの映画は、十年間決して思い出として残してきたわけではなく、卒業して数年経てば結果として思い出を振りかえるものになっていくのだと思うが、今、橘定野球部で活動している部員には、自分の今の姿、共に活動する仲間の姿をスクリーンを通して客観的にあらためて見

映画のナレーターは袴田羽。1年生が務めたのは初めてのことで、新たなスタート、そして前進への機会になると思っている。今、自分がやっていること、継続していることへの価値を見出してくれたい。部員がいたかもしれない。所属感や仲間への尊重する気もちが自然とわき「橘」のユニフォームを着ることへの誇りを感じてくれていた部員がいたかもしれない。自分が目ざすもの、目ざしたいものをあらためて明確にできた部員がいたかもしれない。六人の部員が目標をより強く共有できたかもしれない。他にもたくさんある。これらは全て私の願いであり理想ではあっても、その願いが願いで終わらなかつた代々の橘定野球部員の姿を見ているからつくり続けているのも確かなこと。今年には少ないメンバーであっても、地道に誠実に取り組む姿を多く見た。だく機会にもなり、「誰からも応援してもらえぬ野球部」を目ざす私たちにとって貴重な機会にもなった。

現在予定されている11月の練習試合

11月3日(金)
市営小田球場 12時30分開始予定
対 日々輝学園高校横浜校
(11時15分までに集合 グラウンド使用は12時~16時)

11月11日(土)
市営小田球場 12時20分開始予定
対 クラーク記念国際高校横浜校OB
(11時00分までに集合 グラウンド使用は12時~14時)

11月23日(木)
市内球場を確保でき次第
日中 練習試合を予定

11月25日(土)
市立高津高校グラウンド 12時00分~
今年度も市立4校部員不足のため川崎市大会(公式戦)は中止となり、合同練習会。(4校のOB・OGとの練習試合を予定)

10月30日(月文化祭代休) 14:00~16:00 等々力運動広場でバッティング練習